

課題研究ワークシート① 知っているようで知らない身近なものに迫ろう

私たちが日頃から目にしているものは、その形が「当たり前」だと考える傾向にあります。敢えて、その「当たり前」について、さまざまな角度から迫ってみましょう。初回のお題は「信号機というものに関して」です。信号機を中心に、「疑問文」を作ることから、始めましょう。

- ①【個人】信号機というものに関して、「疑問文」をできるだけ多く作る。
- ②【グループもしくはペア】仲間と共有し、全ての箱を埋めるようにする。他の人や、他の班が作った疑問文を共有し、自分のワークシートにメモをする。
- ③書き出した疑問文から「良い疑問文」だと思うものベスト3を発表する。その際、なぜそれが「良い疑問文」だったのかを理由を言う。

疑問 1	疑問 2	疑問 3	疑問 4
疑問 5	疑問 6	疑問 7	疑問 8
疑問 9	疑問 10	疑問 11	疑問 12
疑問 13	疑問 14	疑問 15	疑問 16

「良い疑問文」ベスト3 + 選んだ理由

(1)

(2)

(3)

課題研究ワークシート② 「探究の型」多くの人を説得できる文章を書こう

私たちの身の周りには様々な課題（＝解決が必要な問題、改善が必要な事柄）が多くあります。もうすでに誰かが気がついているものもあれば、誰も気がついていない（課題だと認識されていない）ものもあります。解決するには多くの人を動かす必要があります。今回は、こちらから「お題」を出します。お題になっている課題について、「このようにしたら解決できる」と、多くの人に思わせる文章を書いてみましょう。どのようなことに留意して、文章を書けば、人が動いてくれるでしょうか。チームで相談しながら取り組みましょう。

お題（担当の先生から出題されます。）

〈チームで使用して良いもの〉パソコン1台
 〈チームで相談して決めること〉納得してもらいたい対象（できるだけ多くの方が望ましい）
 ・どのような構成で書けばよいか
 〈約束事〉話し言葉ではなく、書き言葉（文章）で書く
 () に向けて

OPCを使用した場合は、どのような「検索ワード」を入力して、情報を見つけたのか、枠内にメモをするようにしましょう。

〇振り返り

(1) 疑問文にはどんな種類がありましたか。皆さんが作ったものは、どの問いの形に近いでしょうか。

	「問い」の種類	「問い」の例
1	言葉の意味や定義を問う「問い」 言葉がどのような意味や定義で用いられているか	〇〇の意味は？ 〇〇の定義は？
2	原因（なぜ）を問う「問い」 原因とその結果は何か？	なぜ〇〇は生じているのか？
3	慣習性を問う「問い」 その現象が実際に生じているのか？	〇〇は本当に生じているのか？ <程度の比較>
4	比較を行う「問い」 その現象の程度や新たな側面は何か？	他国ではどのくらい〇〇が進んでいるか？ <他の国や地域との比較>
5	先行研究・先行事例を問う「問い」 これまでどのような取り組みや研究が行われてきたのか？	〇〇に対してどのような取り組みが行われてきたのか？ <これまでの取り組み>
6	影響を問う「問い」 今後どのような影響が生じるのか？実際に今、影響が生じているのか？	〇〇によってどのようなことが起こるのか？ <影響>

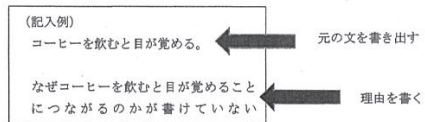
(出典：岡本尚也『課題研究メソッド～スタートブック～』、啓林館、2019)

(2) 「良い問い」とは、どのような疑問文でしょうか。その条件を考えて、整理してみましょう。

(3) 問いが浮かばない場合があります。それはなぜだと思いますか。

(手順)

- ①話し言葉ではなく、書き言葉で、文章で書く。
- ②話し対象は、自由に設定してよい。
- ③書き終えたら、別のチームと交換する。
- ④他のチームの作品を読み、「納得がいく」「説得力がある」箇所があれば、青いペンでその箇所を線を引く。「納得がいかない」「説得力がない」と感じた箇所には、赤いペンで線を引く。※理由を書いたり、添削したりしない。
- ⑤線を引き終わったら、相手チームに返却する。
- ⑥返却されたら、線が引かれている箇所を確認する。なぜ青い線、赤い線が引かれているか、まずは自分たちで理由を考えてから、相手チームに聞く。
- ⑦相手チームの理由に納得できたら、その理由を青い付箋に書く。納得できなかったら赤い付箋に納得できない理由を書く。(一人あたり、赤・青2枚～3枚ずつ配布します。)
- ※付箋には2つのものを書きます。



- ※⑥、⑦を通じて、お互いに、理由をきちんと相手に分かりやすく伝えるようにする。
- ※それぞれチームから出てきた「青色」と「赤色」の付箋を、黒板もしくはA3サイズの用紙に、整理する。(色は混ぜていても良い)
- ※どのように整理・分類するかは自分たちで相談しながらすすめます。
- ※分類できたら、その付箋のかたまりに(グループ)に、タイトルをつけてみましょう。
- ※赤い付箋については、全体で検証してみましょう。
- ⑧最後に気がついたことを共有します。
- ⑨共有できたら、各自の「研究ノート」に自分の言葉で記録をします。